【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成17年12月2日(2005.12.2)

【公開番号】特開2002-346583(P2002-346583A)
【公開日】平成14年12月3日(2002.12.3)
【出願番号】特願2001-152331(P2001-152331)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０２Ｆ　3/10
　Ｃ０２Ｆ　3/08
// Ｃ１２Ｎ　11/08
【ＦＩ】
　Ｃ０２Ｆ　3/10　Ｚ
　Ｃ０２Ｆ　3/08　Ｂ
　Ｃ１２Ｎ　11/08　Ａ
　Ｃ１２Ｎ　11/08　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成17年10月13日(2005.10.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
　【請求項１】　熱可塑性性樹脂からなる成型体を、０．１規定～５規定の酸にて処理してなる微生物固定化担体。
　【請求項２】　前記成型体を酸に０．１～１０時間浸漬させてなる請求項１記載の微生物固定化担体。
　【請求項３】　前記酸が塩酸である請求項１又は２に記載の微生物固定化担体。
　【請求項４】　前記熱可塑性樹脂が酸変性熱可塑性性樹脂を含む請求項１～３いずれかに記載の微生物固定化担体。
　【請求項５】　前記酸変性熱可塑性樹脂がプロピレン－無水マレイン酸共重合体を含む請求項４記載の微生物固定化担体。
　【請求項６】　前記酸変性熱可塑性樹脂がエチレン－メタクリル酸共重合体（アイオノマー樹脂）を含む請求項４記載の微生物固定化担体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
　前述の成型体を、０．１～５規定の酸を用いて酸処理することによって、担体の流動性を向上させることができる。使用する酸の濃度が０.１規定未満であると、担体の初期流動性は無処理の場合と同等であり、酸処理の効果は認められない。
　一方５規定を超える濃度の酸で処理した場合、樹脂表面の侵食や溶出が起こりやすく、耐久性に問題が生じる可能性があることに加え、処理の際、取り扱いに厳重な注意を払わないと危険であるため好ましくない。